u. Schlagintweit, Ztschr. exp. Med. Bd. 32. 1923. 74) Gullen, G. E., The Journ. of Biol. Chem. Bd. 30. 1917. 75) 加藤, 慶應醫學. 第 1 卷. 第 3 號. 大正 10 年. (1921). 76) 井上, 中外醫事新報. 第 1081 號. 77) W. Linton, u. Poindexter, H. A., J. of exp. Med. No. 5. 1931. 78) Delarsche, Zeitschr. f. Biol. Bd. 14. 1878. 79) Marten, Hans Winterstein's Handbuch d. Vergleich. Physiol. Bd III 2 Hälfte. 80) Rubner, Zitiert nach Lask's The science of nutrition S. 14. 81) Colasanti, Pfüger's Arch. 14. 1877. 82) Gotô, Biochem. Zeitschr. 135. 1923. 83) 吉永, 福岡醫科大學雜誌. 18 卷. 大正 14 年. (1925). 84) 竹山, 田谷, 日本內科學會雜誌. 第 9 卷. 1920. 85) 大森, 北越醫學會雜誌. 第 36 卷. 1921. 86) 小澤, 日本內科學會雜誌. 第 9 卷. 1920. 87) 久保, 北海道醫學會雜誌. 第 5 卷. 88) 神林, 日本內科學會雜誌. 第 13 卷.

89) 堀木, 國民衛生. 第 7 卷. 第 10 號 昭和 5 年. (1930). 90) 飯塚, 日本內科學會雜誌. 第 9 卷. 第 5 號. 91) 井上, 京都醫學會雜誌. 第 22 卷. 第 3 號. 92) Voit, u. a. Titiert nach Oppenheimer's Handbuch d. Biochem. Bd. 4. I. Teil. 93) Traube u. a. Titiert nach Oppenheimer's Handbuch d. Biochem. Bd. 4. II. Teil. 94) 吉永, 福岡醫學會雜誌. 第 18 卷. 1925. 95) Mathien u. Urbain, Maly's Jahresberichte f. Tierchem. 2. 1873. 96) Wittkowsky, Naunyn's Arch. 23. 1891. 97) Haggard, J. biol. chem. 44. 1920. 98) Bazett u. Haldane., J. physiol. 55. 1921. 99) Davies, Haldane u. Kennaway., J. physiol. 56. 1920. 100) Colli. u. Bakus., Americ. J. physiol. 51. 1920. 101) Grant u. Goldman, Americ. J. physiol. 52. 1921. 102) Cajori. u. Crouter., J. biol. Chem. 57. 1923.

二、實驗的「アチドーゼ」ノ海狸結核ニ及ボス影響

目 次

第一章 緒 言
第二章 實驗方法
第三章 實驗成績

第一節 肉眼の解剖所見
第二節 顯微鏡の所見
第四章 總括考察及ビ結論

第一章 緒 言

一般生物學ニ於ケル形態或ハソノ種々ナル生活隨伴現象ノ科學的説明ニ對シテ、輒近物理化學的考察ト醫學的研究トガ漸次歩ミ寄リツ、アリト雖モ、尙未知ノ點少シトセス。細胞ニ於ケル「プロテイン」ハ機能的ニモ最モ樞要ナル地位ヲ有スル所ナルモ、コレガ本態ニ關シテハ膠質化學的方面ヨリノ見地ヲ無視シ得ザル所ナリ。事實細胞内病理學 Intercellular pathology ニ於ケル「プロテイン」ノ變化、即チソノ膠質化學的的狀態ノ變化ヲ吾人ハ日常看過シ得ズ。而モコノ變化タルヤ水素「イオン」ニ依リテ影響セラルル所最モ大ニシテ、コノ點水素「イオン」ハ「プロテイン」ノ物理化學的性狀ヲ變動セシムベキ鍵ナリト稱シ得ベシ。細胞「プロテイン」ノ膠質狀態即チ „Eukolloi-

dität” ハ有機體ノ isotonia, isothermia, isosonia 等ノ調節機轉ニ支配セラル、所ニシテ、就中 isoionia ニ屬スルモノハ H^+ 及ビ OH^- ノ平衡狀態ヲ以テソノ尤ナルモノトス。廣ク生體ニ及ボス酸・鹽基平衡ノ影響ニ關スル文獻ヲ涉獵スルニ、夙ニ⁽¹⁾⁽²⁾Loeb 及ビソノ協同者ノ動物卵子發育ニ關スル業績ヲ見ル。更ニ⁽³⁾⁽⁴⁾Schade ハ病理的炎衝部位ニ於ケル酸・鹽基平衡ニ就テ研究シ、⁽⁵⁾Balint モ亦腫瘍ニ就キ報告スル所アリ。更ニ又炎衝ト酸鹽基平衡トノ問題ヲ研究セルモノニ、⁽⁶⁾Luithlen ノ業績アリ。氏ニ依レバ外部ヨリ附與セル刺激ニ對スル皮膚反應ハ、攝取セル食餌ノ性質ニ影響セラル、所アリ、即チ鹽酸ヲ服用セシメタルモノハ刺激ニ對スル皮膚反應ノ一般ニ強キヲ説ケリ。

⁹⁾Chiari u. Januschke モ結膜ニ就キ實驗的ニ同一ナル事實ヲ經驗セリ。サレド⁽¹⁰⁾K. Fürst ハコレト逆ノ結果ヲ得タリ。⁽¹¹⁾Wirtz ハ人間ノ前膊皮膚ニ就キコレニ電氣的刺戟ヲ附與シ、酸性ハ炎衝ヲ促進シ、鹽基性ハ阻止的ニ作用スト言ヘリ。又⁽¹²⁾Sauerbruch u. ⁽¹³⁾Hermannsdorfer ハ酸性食餌ハ一般ニ創傷ノ治癒機轉ニ良果アルヲ經驗シ、コノ事實ヨリ Sauerbruch ハ炎衝「アチドーゼ」ハ生體ノ防衛機轉ニシテ中毒症狀ニハ非ラザル旨ヲ述ベタリ。

以上列擧セル文獻ニ於テハ同時ニ介在スベキ細菌感染ノ場合ヲ論及セズ。

⁽¹⁵⁾Clairmont ハ葡萄狀球菌或ハ大腸菌ノ感染ニ因ル創傷ハ、鹽酸ヲ服用セシムル事ニ依リ良好ナル結果ヲ招來スト言ヘリ。

G. S. H. ⁽¹⁵⁾Gerson. Sauerbruch u. Hermannsdorfer.) 氏食餌ハ結核ニ效果アリト稱スルモ、ソノ治癒機轉ハ Hermannsdorfer ニ從ハバコレ等食餌ニ因ル「アチドーゼ」ニ存スルモノナリト。

⁽¹⁷⁾⁽¹⁸⁾Gaza u. Brandi ハ急性炎衝ニハ鹽基性、慢性炎衝ニハ酸性附與ガ有利ナリトス。更ニ Hermannsdorfer ハ酸性附與ニ因リ組織液ノ減少ヲ來シ、延イテ細菌竝ニソノ毒力ノ減退ヲ來スモノナリト述ベタリ。

茲ニ興深キハ Clairmont ハ培養ニ當リテ連鎖狀球菌ハ比較的耐酸性ヲ有スルモ、葡萄狀球菌及ビ大腸菌ハ稍々酸性ニ對シ敏感ナルヲ知リタル點ナリ。既ニ⁽¹⁹⁾⁽²⁰⁾Michaelis 及ビソノ一派ハ細菌ノ増殖ニ對シ、ソノ「メヂウム」ノ水素「イオン」濃度ガ重大ナル關係ヲ有スル旨ヲ指摘シ、⁽²¹⁾Keysser u. Ornsten ハ水素「イオン」濃度ハ細菌破壊ノ決定要素ナリト述ベタリ。

既ニ⁽²²⁾Schade u. Claussen ハ結核菌増殖ノ至適水素「イオン」濃度ヲ決定シ、PH ニテ 6.2 乃至 6.9 ノ間ヲ以テ増殖好適圏トナス。

⁽²³⁾Dernby ハ廣ク數 10 種ノ細菌ニ就キソノ増殖好適水素「イオン」濃度ヲ求メタリ。氏ニ依レバ連鎖狀球菌ハ PH ニテ 6.2 乃至 7.0 葡萄狀球

菌ハ 7.2 乃至 7.6 ノ間ニ存ストナス。コノ點既述ノ Clairmont ノ文獻ト對比シ一脈相通ズル所アリ。

酸・鹽基平衡失調ガ結核ニ及ボス影響ヲ探究スル上ニ、細菌學的ニ結核菌ソレ自體ノ性質、殊ニソノ對酸性或ハ對鹽基性ヲ精査スベキハ、結核菌ノ増殖ガ畢竟結核病勢ト關連深キガ故ニ意義尠シトセズ。余ノ結核ニ及ボス「アチドーゼ」ノ影響ヲ究明セントスルニ當リ、コノ點ハ第三篇ニ述ブル所アラントス。

「アチドーゼ」ノ結核ニ對スル關係ニ就テハ、既ニ⁽²⁴⁾⁽²⁵⁾Bonanno A. M. ノ報告アリ。氏ハ海狸ヲ用ヒテ實驗シ體重・生存日數共ニ酸性食餌群ハ最モ不良ニシテ早期ニ斃死セルモノ、大部ハコレニ屬シ一般ニ抵抗力弱シト述ベタリ。更ニ氏ハ鹼性食餌ヲ以テ健全海狸ヲ飼育スルニ結核感染早シト附言セリ。

吾國ニ於テハ⁽²⁶⁾杉沼ハ「ラノリン」飼養ノ結核動物ニ於テソノ病變ハ對照ニ比シ劇甚ナルヲ報告シ⁽²⁷⁾井上ハ「アチドーゼ」ヲ起スガ如キ食餌ヲ以テ動物ヲ飼養スル時ハ結核感染後ノ經過ニ惡影響アリト述ベタルモ「アチドーゼ」ノ測定ハ行ハザリキ。

⁽²⁸⁾Bálint u. Weiss. モ亦結核感染海狸ニ鹽酸ヲ服用セシメタル實驗ニ於テ、ソノ生存日數ノ短縮セラル、ノ事實ヲ知リスル海狸ニ於テハ「アレルギー」モ減弱セラル、旨ヲ附言セリ。コレニ反シ重碳酸「ソーダ」ヲ服用セシメタル結核感染海狸ニテハ病竈ニ纖維母細胞ノ增多ヲ來ス點ヨリ、氏ハ鹽基性ハ結核組織ノ増殖機轉ヲ促進スルモノナリト報告セリ。

以上涉獵略記セル業績ヲ通覽スルニ結核ニ對シ「アチドーゼ」ヲ不利トナスモノアルモ、Hermannsdorfer ノ如ク有利ナリト解スルアリ。サレド一般ニ酸性食餌トシテ或ル種ノ扁食ヲ強行スルハ、生體必須ノ養素攝取量ニ變調ヲ來シ酸鹽基平衡ノ失調、例ヘバ「アチドーゼ」ノ未ダ無キニ關ハラズ斯カル事柄ソレ自體既ニ結核ニ惡影響ヲ齎ラス場合モアルベシ。故ニ余ハ試驗獸

對照獸ハ共ニ通常食餌ヲ以テ飼養シ、ソノ生活ニ必要ナル養素ハ完全ニ且ツ十分ニ攝取セシムルト共ニ、「アチドーゼ」ハ別ニ鹽化安門ノ一定量ヲ服用セシムル事ニ依リテコレヲ惹起セシメ、以テソノ結核ニ及ボス影響ヲ觀察スル事トセリ。余ハ今村教授ノ指導ノ下ニコレガ實驗ニ

従事シ、茲ニソノ結果ヲ報告セントス。實驗成績ノ大略ハ昭和 9 年 4 月日本結核病學會總會ニ於ケル⁽²⁹⁾今村教授ノ「細菌免疫學の方面ヨリ觀タル肺結核ノ豫後」ナル宿題報告ノ一部ニ於テ發表セラレシモノナリ。

第二章 實驗方法

Bálint ノ實驗ニ於テ「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル目的ニ鹽酸ヲ用ヒタリ。即チ氏ハ海狸ニ N/10 鹽酸ノ 5 乃至 6 鈎ヲ毎日「カテーテル」ヲ以テ注飲セシメコレニ依リテ惹起セラル、血漿ノ水素「イオン」濃度ヲ Halb u. Weiss ノ方法ヲ以テ測定セリ。既ニ余ハ第一篇ニ於テ「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル目的ノ下ニ諸種ナル方法ヲ撰ビタルモ、ソノ内鹽化安門ヲ服用セシムル方法ノ頗ル合理的ニシテ且ツ目的達成ニモ極メテ優秀ナルヲ知リタリ。余ハ Bálint ニ倣ヒ鹽化安門ノ一定量ヲ溶液ノ形ヲ以テ「カテーテル」ニ依リテ注飲セシメ、コレニ依リテ惹起スル「アチドーゼ」ガ結核感染ノ經過ニ如何ナル影響ヲ齎ラスカヲ檢スル事トセリ。

1. 實驗準備

試驗獸ハ總テ「ツベルクリン」皮内反應陰性ニシテ、淋巴腺系統ニ腫脹等ノ異常ヲ認メザル 300 瓦内外ノ雄性海狸ノミヲ撰ビタリ。海狸ハ數日當教室ノ飼料(毎日雪花菜週ニ 2 回青草投與)ヲ以テ飼養シ、健康状態ニ異常ナキヲ確メタル上結核ニ感染セシム。結核感染ノ方法ハ二種類トシ一ハ大腿部皮下ニ 1/5000mg ヲ、一ハ腹腔内ニ 1/10000mg ノ結核菌ヲ接種シコノ二種ノ感

染様式ノ海狸群ハソノ各ニ就キ更ニ甲乙二群宛ニ分チ、甲群ハ直チニ鹽化安門ノ注飲ヲ開始シ「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル事トセリ。而シテ接種セル結核菌ハ何レモ當教室保有ノ強毒人型上池株ナリ。

2. 「アチドーゼ」惹起法

鹽化安門ハソノ味辛辣ニシテ海狸ハ普通ニハコレヲ攝取セザルヲ以テ、「カテーテル」ニテ強制的ニ注飲セザルベカラズ。即チ 10% 鹽化安門水溶液ヲ調製シ、海狸體重 1 匁ニ就キ 4 鈎ノ割合ヲ以テ注飲セシメタリ。胃内容ガ食餌ニヨリテ充滿セラレ居ル時ハ「カテーテル」ヲ以テ注飲セシムルモ、口腔内ニ再ビ鹽化安門溶液ノ逆流スル場合多ク、且ツコノ際往々氣管内ニ溶液ノ吸引セラレテ窒息スル事アレバ注飲操作ハ早期空腹時ニコレヲ行ヒタリ。

斯クテ結核菌接種ト同時ニ爾後毎日 1 回宛右方法ニ從ヒ鹽化安門ヲ注飲シ行ク時ハ、時日ノ經過ト共ニ海狸ハ連續的ニ「アチドーゼ」ニ陥リ、ソノ體重竝ニ活動力モ低下スルモノナリ。

鹽化安門ノ連日服用ニ因ル「アチドーゼ」ノ状態ヲ知ラント欲シ左記豫備實驗ヲ行ヒタリ。(第一篇ニモ同様ナル實驗アリ)

第三章 實驗成績

連日鹽化安門ヲ結核感染海狸ニ服用セシムル時ハ、時日ノ經過ト共ニ漸次憔悴脱力シ、コレヲ鹽化安門ヲ注飲セザル對照群ト比較スル時ハ、ソノ體重ニ於テ榮養状態ニ於テ一般ニ著明ノ差等アリ。對照群ニテハ未ダ斃死セザルニ「アチ

ドーゼ」群ニ於テハ相繼ギ斃死スルアリ。斯ク注飲 20 回前後ニ及ブ時ハ「アチドーゼ」群ニアリテハ外見上重篤ナル症状ヲ呈スルニ至ルヲ以テ、鹽化安門ノ注飲操作ヲ暫ク中止シ、症状ニ應ジテハ再ビ注飲操作ヲ數回返覆シ、結核菌接

(第 1 表) 連日鹽化安門服用ニ依ル結核感染海猿ノ「アチドーゼ」測定成績

被檢者 N/100 HCl	毎日鹽化安門服用セルモノ		健 常 海 猿				注飲開始後 7 回目 空腹時採血 測定日 22/IV 溫度 29°C	
	A. 77 海猿	A. 78 海猿	A. 82 海猿	A. 84 海猿	A. 85 海猿	101 海猿		103 海猿
0.3cc	7.44 3.63×10 ⁻⁸	7.37 4.27×10 ⁻⁸	7.29 5.13×10 ⁻⁸	7.47 3.39×10 ⁻⁸	7.51 3.09×10 ⁻⁸	7.41 3.89×10 ⁻⁸	7.39 4.07×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸
0.5	5.76 1.74×10 ⁻⁶	5.81 1.55×10 ⁻⁶	6.19 6.46×10 ⁻⁷	6.14 7.25×10 ⁻⁷	6.03 9.33×10 ⁻⁷	6.29 5.13×10 ⁻⁷	6.23 5.89×10 ⁻⁷	6.14 7.25×10 ⁻⁷
1.0	4.58 2.63×10 ⁻⁵	4.68 2.09×10 ⁻⁵	5.14 7.25×10 ⁻⁶	5.05 8.91×10 ⁻⁶	5.05 8.91×10 ⁻⁶	5.20 6.31×10 ⁻⁶	5.14 7.25×10 ⁻⁶	5.35 4.47×10 ⁻⁶
0	7.37 4.27×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸	7.41 3.89×10 ⁻⁸	7.42 3.80×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸	7.35 4.47×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸	7.34 4.57×10 ⁻⁸
0.5	5.83 1.48×10 ⁻⁶	5.47 1.55×10 ⁻⁶	6.14 7.25×10 ⁻⁷	6.13 7.41×10 ⁻⁷	6.28 5.25×10 ⁻⁷	6.23 5.89×10 ⁻⁷	6.19 6.46×10 ⁻⁷	6.18 6.61×10 ⁻⁷
1.0	4.55 2.82×10 ⁻⁵	4.38 4.17×10 ⁻⁵	5.19 6.46×10 ⁻⁶	5.14 7.25×10 ⁻⁶	5.30 5.01×10 ⁻⁶	5.30 5.01×10 ⁻⁶	5.17 6.76×10 ⁻⁶	5.39 4.07×10 ⁻⁶
0	7.29 5.13×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸	7.47 3.39×10 ⁻⁸	7.54 2.88×10 ⁻⁸	7.39 4.07×10 ⁻⁸	7.41 3.89×10 ⁻⁸	7.32 4.79×10 ⁻⁸	7.39 4.07×10 ⁻⁸
0.5	5.69 2.04×10 ⁻⁶	5.67 2.14×10 ⁻⁶	6.18 6.61×10 ⁻⁷	6.03 8.13×10 ⁻⁷	6.06 8.71×10 ⁻⁷	6.31 4.90×10 ⁻⁷	6.26 2.19×10 ⁻⁷	6.18 8.32×10 ⁻⁷
1.0	4.31 4.90×10 ⁻⁵	4.28 5.25×10 ⁻⁵	5.15 7.08×10 ⁻⁶	5.10 7.94×10 ⁻⁶	5.29 5.13×10 ⁻⁶	5.27 5.37×10 ⁻⁶	5.34 4.57×10 ⁻⁶	5.30 5.01×10 ⁻⁶

註 各欄ノ内上ノ數字ハ PH ヲ下ノ數字ハ [H] ヲ現ハス
測定値ハ 37°C ノ補正ヲ加ヘズ、對照ト酸中和能ノ低下ヲ比較スルニ必要ナキ爲ナリ

種竝ニ鹽化安門注飲開始後 1 ヶ月日ニ對照群ト共ニ一齊ニ撲殺シソノ病理學の所見ヲ究明セリ。

第一節 肉眼の解剖所見

(1) 皮下結核感染海猿解剖所見

A、實驗的「アチドーゼ」群(第 2 表参照) 體重 實驗前ノモノニ比シ解剖時ノ體重ハ一般ニ減少セルモノ多シ。サレド幾分増加セル數匹ノ例外アリ。(A. 20, A. 42, A. 58, A. 67)

接種部位ノ變化 結核菌接種當初ソノ局所即チ左大腿部皮下ニ於テ輕度ノ浸潤ヲ認メ、爾來連日鹽化安門ヲ服用セシメテ 10 日前後ヲ經過スルニ接種部位ノ皮膚ハソノ皮下結締織ト癒著シ該皮膚ノ移動ヲ微シ難ク且ツ暗紫赤色ノ皮下出血竈ヲ透見スルモノアリ。

接種部位ニ於ケル皮膚ノ皮下結締織トノ癒著高度ナルモノ或ハ皮下出血竈ノ廣範ナルモノニテハ該部ノ強直ヲ來シ運動障礙ヲ伴フモノアリ。(A. 13, A. 23, A. 28, A. 29, A. 43, A. 69 海猿)更ニコノ部位ヲ切開スルニ皮下出血高度ニシテ皮下結締織ハ宛モ腐肉狀ヲ呈シ皮膚ト固ク癒合セリ。(寫眞参照)

部屬淋巴腺、結核菌接種後腫脹逐日増大シ、前記皮下出血竈ノ廣範ナル場合ハコノ中ニ埋沒圍繞セル、場合アリ。即チ皮下出血竈ノ一部ニ於テ、膝髌腺ノ中心部乾酪樣變性ニ陥リ或ハ既ニ軟化セルモノヲ發見スル事アリ。(A. 59, A. 62, A. 43, A. 29, A. 28, A. 23)

脾臟 容積ハ概ネ膨大シコレヲ秤量スルニ 1.5 瓦以上ニ及ブモノアリ。(A. 23, A. 29, A. 41, A. 42, A. 45, A. 58, A. 62) 表面ハ概ネ粗糙ニシテ時ニ顆粒狀ヲ呈シ、ソノ中ニ灰白色粟粒大或ハ時ニ麻實大ノ結節ヲ散發隆起ス。或ハ單ニ容積膨大スルノミニシテ表面比較的滑澤、結節

ノ鈔キモノアリ。(A. 49, A. 67)

肺臟 一般ニ暗紫色ヲ呈スルモノ多ク、左右各葉ヲ通ジ肺門部ニ接シテ粟粒大若シクハ麻實大ノ結節3、4個ヲ見ルノミニシテ著シク多發セルモノナシ。

肝臟及ビ腎臟 著變ナク結節ヲ認メタルモノナシ。

遠隔淋巴腺 腸間膜腺、肝門腺、後腹膜腺、氣管枝腺等全般的ニ腫脹膨大セルモノ多ク、且ツコレ等淋巴腺ノ表面ニ於テ微細ナル點狀ノ出血ヲ見ルモノ多キハ注意スベキ點ナリ。

B、鹽化安門ヲ服用セシメザル對照海狸群(第3表參照)

體重、實驗前ノモノニ比シ解剖時ノ體重ハ一般ニ増加セルモノ多シ。サレド幾分減少セル3例アリ。(A. 35, A. 69, A. 70)

接種部位ノ變化 結核菌接種當初局所即チ左大腿部皮下ニ於テ輕度ノ浸潤ヲ認メタルモノアリシモ、何レモ該變化ハ間モナク消散セリ。且ツ接種部位ノ皮膚竝ニソノ皮下結締織ノ癒著或ハ該部ノ皮下出血等ハ認メラズ。

部屬淋巴腺 部屬鼠蹊腺特ニ部屬膝裝腺ハ逐日膨大腫脹ス。解剖時ニ於テ膝裝腺或ハ時ニ鼠蹊腺ノ中心部ガ乾酪樣變性ニ陥リタルモノヲ見タレ共、(A. 31, A. 36, A. 39, A. 65, A. 66, A. 68, A. 70, A. 71, A. 74) ソノ數ハ「アチドーゼ」群ノ場合ノ如ク多カラズ。加フルニ病勢ノ更ニ進ミテ軟化セルモノ等ハ1例モコレニ遭遇セズ。

脾臟 容積ノ膨大セルモノヲ見ズ。表面粗糙ニシテ灰白色粟粒大ノ結節ヲ見シモノ(A. 31, A. 32, A. 33, A. 37, A. 39, A. 40, A. 72, A. 75) アルモ、コレヲ「アチドーゼ」群ニ比スレバソノ數ニ於テソノ質ニ於テ著シク輕少ナリ。

肺臟 結節ノ發生セルモノ殆ドナシ。(例外 A. 37)

肝臟及ビ腎臟 變化ヲ認メズ。

遠隔淋巴腺 腸間膜腺・肝門腺・後腹膜腺・氣管枝腺等或ルモノハ脹腫シ、或ルモノハ健常ナル

モ、全般的ニ觀察シテ「アチドーゼ」群ニ比シテソノ數及ビ程度ハ輕微ナリ。殊ニ淋巴腺表面ニ於テ出血ノ徵ヲ呈セルモノハ1例モコレヲ見ズ。

(2) 腹腔内結核感染海狸ノ解剖所見

A、實驗的「アチドーゼ」群(第4表參照)

體重 實驗前ノモノニ比シ解剖時ノ體重ハ一般ニ減少セルモノ多シ。サレド幾分増セルモノ3例アリ。(E. 2, E. 4, E. 16)

接種部位ノ變化 ナシ。

大網 胃下部ニ牽引セラレ麻實大、時ニ小豆大ノ乾酪樣變性竈ヲ連ヌルモノ多シ。(E. 2, E. 3, E. 6, E. 7, E. 10, E. 11, E. 16, E. 17, E. 18, E. 19)

脾臟 容積ハ殆ンド例外ナク膨大腫脹シ、秤量スルニ1.5瓦以上ニ及ブモノ數多アリ。(E. 1, E. 2, E. 3, E. 4, E. 5, E. 6, E. 9, E. 10, E. 11, E. 12, E. 13, E. 16, E. 17, E. 18) 表面ハ粗糙更ニ顆粒狀ヲ呈シ灰白色麻實大ノ結節ヲ多發ス。肺臟 一般ニ暗紫色ヲ呈スルモノ多ク、各葉ヲ通ジ粟粒大乃至麻實大ノ結節ヲ多發スルモノ多シ。

肝臟 一般ニ變化ナキモノ多キモ、二三表面ニ精狀ノ結節ヲ見ルモノアリ。(E. 2, E. 7, E. 13)

肝臟自體ハ幾分貧血性ナルモノ多キガ如シ。

腎臟 變化アルヲ認メズ。

各淋巴系 腸間膜腺・肝門腺・後腹膜腺・氣管枝腺等何レモ著明ニ膨大腫脹シ、病變高度ノモノニアリテハソノ中心部ハ乾酪樣變性ニ陥ルモノアリ。

B、鹽化安門ヲ服用セシメザル對照海狸群(第5表參照)

體重 實驗前ノモノニ比シ解剖時ノ體重ハ増加セルモノ多シ。サレド反ツテ減少セル2例アリ、(E. 33, E. 35)

接種部位ノ變化 ナシ。

大網 時ニ胃下部ニ纒轉牽引セラレ、粟粒大或ハ麻實大ノ乾酪樣變性竈ヲ連珠狀ニ現出セルモノアリ。大網ニ於ケル結核病變ハ「アチドーゼ」群ニ比シテ著明ナル差等ヲ認メ得ズ。

脾臟 容積ノ膨大腫脹セルモノヲ認メズ。且ツ結節ノ大サ及ビ數ヲ「アチドーゼ」群ノモノニ比スルニ著シク輕少ナリ。

肺臟 大多數ニ於テ結節ノ形成セララル、ヲ見ルモノノ程度ハ「アチドーゼ」群ニ比シテ一般ニ輕微ナルモノ多ク、結節自體ノ大サモ概シテ小ナルガ如シ。

肝臟 殆ンド變化ヲ認メズ。僅カニ 2 例ニ於テ糟狀ノ粟粒結節ノ存セルヲ發見セリ。(E. 21, E. 33)

腎臟 變化ナシ。

各淋巴系 腸間膜腺・肝門腺・後腹膜腺・氣管枝腺等何レモ腫脹シ、且ツ病勢ノ強度ニ進行セルモノニテハ乾酪樣變性ニ陥レルモノアリ。コノ點「アチドーゼ」群ニ比シテ大差ナキガ如シ。

以上述ベシ所ハ次ノ解剖所見表ニヨリテ層明

瞭ナルベシ。

左記表中ノ記號ハ

A、接種部位ノ出血程度

- 一、接種皮下ニ全く出血ナキモノ
- 十、輕度ノ出血ニシテ外部ヨリ出血ヲ透見シ得ザルモノ
- 十、出血竈ノ直徑 1.0 種以内ナルモノ
- 卅、出血竈ノ直徑 1.0 以上ニシテ皮膚ヲ透シテ明ラカニ皮下ノ出血ヲ認メ得ルモノ

B、部屬淋巴腺ノ結核性變化

- 一、全く病變ヲ認メザルモノ
- 十、米粒大以下ノ腫脹又ハ硬結
- 十、小豆大以下ノ腫脹又ハ硬結
- 卅、豌豆大前後ノ腫脹又ハ硬結
- 卅、豌豆大ニ腫脹且ツ軟化セルモノ

C、淋巴腺及ビ内臟ノ結核性變化

- 一、結核性變化ヲ認メザルモノ
- 十、極メテ輕微ナカラ結核病變ヲ認ムルモノ
- 十、中等度ノ結核性變化
- 卅、高度ノ結核性變化

(第 2 表) 連日鹽化安門ヲ服用セシメテ「アチドーゼ」ヲ惹起セシメタル皮下結核感染海猴ノ解剖所見

海猴番號	性	體重(瓦)		肉 眼 的 解 剖 所 見									
		實驗前	解剖時	接種部位出血	部屬淋巴腺	脾(瓦)	肺	肝	腎	遠 隔 淋 巴 腺			
										腸間膜腺	肝門腺	後腹膜腺	氣管枝腺
A. 11	♂	390	345	十	卅	十 0.7	-	-	-	十	十	十	十
A. 13	♂	330	300	卅	卅	十 0.9	-	-	-	十	十	十	十
A. 14	♂	350	350	十	卅	十 1.0	+	-	-	十	十	十	十
A. 17	♂	490	440	十	卅	十 0.8	-	-	-	十	十	十	-
A. 20	♂	300	325	十	卅	十 1.2	-	-	-	-	十	-	十
A. 21	♂	380	330	十	卅	十 0.9	-	-	-	十	十	十	十
A. 23	♂	520	520	卅	卅	十 2.0	十	-	-	十	十	-	十
A. 25	♂	360	300	十	卅	十 0.9	-	-	-	-	十	十	十
A. 28	♂	370	350	卅	卅	十 1.3	-	-	-	十	十	十	十
A. 29	♂	470	440	卅	卅	十 2.0	十	-	-	-	十	十	十
A. 30	♂	470	445	十	卅	十 0.8	-	-	-	十	十	-	十
A. 41	♂	400	360	十	卅	十 2.5	-	-	-	十	十	十	-
A. 42	♂	330	345	十	卅	十 2.0	-	-	-	十	-	十	十
A. 43	♂	380	335	卅	卅	十 1.2	十	-	-	-	十	-	十
A. 45	♂	345	340	十	卅	十 1.7	-	-	-	十	十	-	-
A. 48	♂	340	300	-	卅	十 0.9	-	-	-	十	-	十	十
A. 49	♂	345	325	-	十	- 0.9	十	-	-	十	十	十	十
A. 51	♂	375	320	十	卅	十 0.7	-	-	-	-	-	十	-
A. 55	♂	365	355	-	卅	十 0.9	-	-	-	十	十	-	-
A. 56	♂	380	360	十	卅	十 1.2	-	-	-	十	-	十	十

A. 58	♂	345	355	+	卅	++ 2.0	-	-	-	+	++	-	+
A. 59	♂	385	355	卅	卅	卅 1.2	-	-	-	+	++	+	+
A. 60	♂	350	310	+	卅	++ 0.8	-	-	-	-	+	+	+
A. 62	♂	360	340	卅	卅	+ 1.5	-	-	-	-	+	+	-
A. 63	♂	370	350	++	卅	++ 0.8	-	-	-	+	++	-	+
A. 67	♂	365	380	-	++	+ 0.7	-	-	-	++	++	+	-

註 使用結核菌 人型上池株 15日培養ノモノ
 接種部位 左大腿皮下、接種菌量 1/5000mg.
 實驗開始日 A. 11→A. 30 昭和8年6月6日(第1回實驗)
 A. 41→A. 67 ,, 7月11日(第2回實驗)
 解剖日 A. 11→A. 30 ,, 7月5日
 A. 41→A. 67 ,, 8月17日
 鹽化安門服用回數 何レモ 23回

(第 3 表) 皮下結核感染海猿ノ解剖所見、(對照) 鹽化安門ヲ服用セザルモノ

海猿 番 號	性	體 重 (瓦)		肉 眼 的 解 剖 所 見									
		實驗前	解剖時	接種 部位 出血	部屬 淋巴 腺	脾	肺	肝	腎	遠 隔 淋 巴 腺			
										腸間 膜腺	肝門腺	後腹 膜腺	氣管 枝腺
A. 31	♂	320	355	-	卅	++ 0.8	-	-	-	+	+	+	-
A. 32	♂	370	420	-	++	+ 0.7	-	-	-	+	-	+	+
A. 33	♂	390	420	-	++	±?0.7	-	-	-	-	+	-	+
A. 34	♂	430	490	-	++	- 0.6	-	-	-	-	-	-	+
A. 35	♂	440	420	-	++	- 0.7	-	-	-	+	-	-	-
A. 36	♂	450	520	-	卅	- 0.8	-	-	-	+	-	+	-
A. 37	♂	470	470	-	++	±?0.7	+	-	-	+	+	-	+
A. 38	♂	390	430	-	++	- 0.6	-	-	-	-	-	+	-
A. 39	♂	430	445	-	卅	+ 0.6	-	-	-	-	-	-	+
A. 40	♂	300	320	-	++	++ 0.7	-	-	-	-	+	+	+
A. 65	♂	350	380	-	卅	- 0.8	-	-	-	+	-	-	-
A. 66	♂	390	400	-	卅	- 0.6	-	-	-	-	-	+	-
A. 68	♂	360	380	-	卅	- 0.6	-	-	-	-	-	-	-
A. 69	♂	335	300	-	++	- 0.5	-	-	-	+	-	-	-
A. 70	♂	375	345	-	卅	- 0.7	-	-	-	-	+	+	+
A. 71	♂	385	410	-	卅	- 0.7	-	-	-	-	-	-	-
A. 72	♂	345	360	-	++	±?0.8	-	-	-	-	-	+	+
A. 73	♂	355	380	-	++	- 0.7	-	-	-	-	-	+	+
A. 74	♂	380	400	-	卅	- 0.7	-	-	-	+	+	++	-
A. 75	♂	350	380	-	++	+ 0.7	-	-	-	-	+	+	+

註 結核菌ノ接種操作ハ「アナドーゼ」群ト同ジ
 脾臟所見ノ内土? トアルハ結核病變トスルニハ疑ハシク顯微鏡的精査ヲ要スベキモノ

(第 4 表) 連日鹽化安門ヲ服用セシメテ「アナドーゼ」ヲ惹起セシメタル
 腹腔内結核感染海猿ノ解剖所見

海猿 番 號	性	體 重 (瓦)		肉 眼 的 解 剖 所 見									
		實驗前	解剖時	大網	脾 (瓦)	肺	肝	腎	淋 巴 腺				
									腸間 膜腺	肝門腺	後腹 膜腺	氣管 枝腺	
E. 1	♂	560	550	++	卅 1.5	+	-	-	+	++	++	++	
E. 2	♂	490	500	卅	卅 2.5	+	+	-	++	++	++	++	

E. 3	↑	410	390	卅	卅 1.5	+	-	-	+	卅	+	卅
E. 4	↑	470	485	卅	卅 1.7	卅	-	-	+	卅	+	卅
E. 5	↑	445	435	卅	卅 2.0	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 6	↑	500	490	卅	卅 2.3	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 7	↑	525	500	卅	卅 1.2	卅	+	-	卅	卅	卅	卅
E. 9	↑	430	400	卅	卅 1.5	+	-	-	+	卅	+	+
E. 10	↑	470	430	卅	卅 1.7	卅	-	-	卅	+	+	卅
E. 11	↑	430	415	卅	卅 1.9	+	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 12	↑	390	370	卅	卅 2.0	卅	-	-	卅	+	卅	+
E. 13	↑	425	410	卅	卅 2.3	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 16	↑	375	400	卅	卅 1.5	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 17	↑	410	400	卅	卅 2.0	卅	-	-	+	卅	卅	卅
E. 18	↑	490	350	卅	卅 2.8	+	+	-	卅	卅	卅	卅
E. 19	↑	430	390	卅	卅 1.2	卅	-	-	卅	卅	卅	卅

註 使用結核菌 人型上池株
 接種部位 腹腔内、接種菌量 1/10000mg.
 實驗開始日 昭和8年9月16日、解剖日 昭和8年10月4日
 鹽化安門服用回數 18回

(第 5 表) 腹腔内結核感染海猿ノ解剖所見、(對照)鹽化安門ヲ服用セザルモノ

海猿番號	性	體重(瓦)		肉 眼 的 解 剖 所 見								
		實驗前	解剖時	大網	脾	肺	肝	腎	淋 巴 腺			
									腸間膜腺	肝門腺	後腹膜腺	氣管枝腺
E. 21	↑	350	410	卅	卅 0.8	卅	-	-	卅	+	卅	卅
E. 22	↑	470	510	卅	卅 0.7	+	+	-	卅	+	卅	卅
E. 23	↑	400	420	卅	卅 0.7	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 24	↑	475	535	卅	- 0.6	+	-	-	+	+	+	+
E. 25	↑	485	540	卅	卅 0.7	+	-	-	卅	+	卅	卅
E. 26	↑	360	395	卅	卅 0.8	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 27	↑	380	415	卅	卅 0.7	+	-	-	+	+	+	+
E. 29	↑	350	405	卅	卅 0.8	+	-	-	+	+	+	+
E. 30	↑	370	375	卅	卅 0.9	卅	-	-	卅	卅	卅	卅
E. 31	↑	365	370	卅	卅 0.6	+	-	-	+	+	+	+
E. 32	↑	380	385	卅	卅 0.8	-	-	-	+	+	卅	+
E. 33	↑	440	420	卅	卅 0.7	+	+	-	+	+	+	卅
E. 34	↑	370	395	卅	卅 0.7	+	-	-	卅	+	+	+
E. 35	↑	395	390	卅	卅 0.8	-	-	-	+	卅	+	+

註 結核菌ノ接種操作ハ「アチドーゼ」群ト同ジ

第二節 顯微鏡の所見

前節肉眼的解剖所見ニ依リテ大略諒知シ得ラルルガ如ク、皮下結核感染海猿及ビ腹腔内結核感染海猿共ニ、コレニ連日鹽化安門ヲ服用セシメテ恒續的ニ「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル時ハ、ソノ結核ノ進展即チ結核病變ハ促進惡化セラル

ルモノ、如シ。

諸種淋巴腺ノ結核病變ノ輕重ハソノ膨大腫脹ノ程度、或ハ更ニ進シデソノ乾酪樣變性又ハ軟化ノ有無ニ依リテ、肉眼的ニモ比較的容易ニコレヲ判別シ得ル所ナルモ他ノ各臟器例ヘバ脾臟、腎臟、肝臟等ニ於ケル結核病變ノ輕重ハ大略肉

眼的ニ判別シ得ルモノナルモ淋巴腺ニ於ケル如クソノ判別ニ必ラズシモ容易ナラザル場合アリ。即チ「アチドーゼ」群ト對照群トニ於ケル結核病竈ノ状態ハ時ニ肉眼的ニ相近似セル事アラシモ、ソノ活動性或ハ進展度ニ甲乙アル場合モアルベク、コノ點ハ顯微鏡の精査ヲ要スベシ。余ハ茲ニ全部ノ實驗海狸個々ニ就テノ鏡檢所見ハコレガ記載ヲ省略シ概括的ニ肺脾腎肝ニ於ケル變化ヲ述ブル事トセリ。

(1) 皮下結核感染海狸ニ於ケル變化

肺臟 「アチドーゼ」ヲ惹起セシメタル大腿皮下結核感染海狸ノ肺臟ハ組織一般ニ鬱血ヲ來シ、而モ組織ノ所々ニ多數ノ上皮様細胞竝ニ少數ノ多核白血球・リン巴球ヨリナル浸潤竈ヲ多發スルモノ多シ。更ニ又中心部乾酪變性ニ陥レル結節竈ヲ見ルモノアリ。然ルニ「アチドーゼ」ヲ惹起セシメザル對照海狸ニテハ未ダ結核病變輕度ニシテ氣管枝壁ノ肥厚ヲ認メル程度ニ過ギザルモノ多シ。

脾臟 「アチドーゼ」ヲ惹起セシメタル大腿皮下結核感染海狸ノ脾臟ハ鬱血極メテ高度ニシテ諸所出血竈ヲ介在スルニ至レルモノ多ク脾竈ヨリ組織球細胞ノ浸潤ヲ來セルモノアリ。濾胞ノ肥大亦著明ニシテ多數ノ上皮様細胞ヲ認ムルモノ多シ。一部ハ病變更ニ高度ニシテ結節多數融合シ不規則ナル病野ヲナスモノアリ。然ルニ「アチドーゼ」ヲ惹起セシメザル對照海狸ニテハ一般ニ濾胞ノ擴大モ輕度ナルモノ多ク上皮様細胞ノ浸潤モ著シカラザルモノ多シ。

肝臟 「アチドーゼ」群ニ於テハ肝小葉ノ所々ニ細胞變性ヲ伴ヘルモノヲ見ル事アルモ結核病竈ヲ形成スルモノナク「アチドーゼ」ヲ惹起セシメザル海狸群ニ於テモ前者所見ト大差ナシ。

腎臟 「アチドーゼ」ヲ惹起セシメタルモノ、然ラザルモノ何レモ著變ナシ。

要之大腿皮下結核感染海狸ニシテ鹽化安門ヲ連日服用セシメ「アチドーゼ」ニ陥ラシメタルモノハ肺臟竝ニ脾臟ノ結核性變化ニ於テ「アチドーゼ」ニ陥ラシメザルモノヨリ惡化セリ。肝臟、腎

臟ニ於テハ兩者間ニ結核病變ナクコノ點甲乙ナキモノ、如シ。

(2) 腹腔内結核感染海狸ニ於ケル變化

肺臟 「アチドーゼ」ヲ惹起セシメタル腹腔内結核感染海狸ノ肺臟ハ一般ニ鬱血著シク大小種々ナル定型の結節多數ヲ形成シソノ中心部ハ乾酪様變性ニ陥ルモノ多シ。尙所々散在性ニ少許ノ多核白血球・リン巴球・上皮様細胞ヨリ成レル肺炎竈ヲ見ル所アリ。コレニ反シ「アチドーゼ」ヲ惹起セザル海狸群ニアリテハ限局性小氣管枝肺炎竈ヲ散見シ或ハ肺胞中隔輕度ニ肥厚シテ血管周圍ニ細胞浸潤竈ヲ見ル事アルモ定型の結節ヲ認ムル場合尠シ。

脾臟 「アチドーゼ」海狸群ニ於テハ出血ヲ見ル事著シク濾胞ハ著シク擴大シ、更ニ互ニ融合シ廣範ナル結節病竈ヲ形成シ、中心部ハ壞疽ニ陥リテ斯カル變化ガ組織ノ大半ヲ占據スルニ至レルモノアリ。而シテ菌染色ニ依リ竈中多數ノ結核菌ノ存在ヲ證明セリ。コレニ反シテ「アチドーゼ」ヲ惹起セシメザル海狸群ニアリテハ脾竈ノ擴大充血、或ハ脾髓竝ニ濾胞内ニ於ケル上皮様細胞ノ集積、或ハ稀レニソノ中心部ニ核崩壞ヲ來セル像ヲ認ムルモ「アチドーゼ」群ニ於ケルガ如キ融合性ノ高度ナル壞疽ニ陥リタル結節ハ之ヲ認メズ。

肝臟 「アチドーゼ」海狸群ニアリテハグリソン氏鞘ノ肥厚ヲ來シ多數ノリン巴球、少許ノ上皮様細胞ノ浸潤竈ヲ散見スル外、肝小葉内ニ孤立性或ハ融合性ニ結節ヲ認ムルモノ多シ。然ルニ「アチドーゼ」ヲ惹起セシメザル海狸群ニテハグリソン氏鞘ニ一致シ又ハ小葉内ニ散在性ニ小圓形細胞浸潤竈ヲ證明シ精見スルニ上皮様細胞ノ集積セルヲ認ムルモノアルモ定型の結節ヲ形成セルモノ極メテ尠シ。

腎臟 腎臟ノ所見ハ「アチドーゼ」海狸群「アチドーゼ」ヲ惹起セザル海狸群共ニ變化ナシ。

要之腹腔内結核感染海狸ニシテ鹽化安門ヲ連日服用セシメ「アチドーゼ」ニ陥ラシメタルモノハ肺臟肝臟、特ニ脾臟ノ結核性變化ニ於テ「アチド

一ゼ」ニ陥ラシメザルモノヨリ増悪セリト言ヒ得ベシ。腎臟ニ於テハ兩者共ニ結核病變ナクコ

ノ點甲乙ナキモノ、如シ。

第四章 總括考察竝ニ結論

既述ノ方式ニ從ヒ結核菌ヲ海狸ノ大腿皮下及ビ腹腔内ニ接種シ、同時ニ「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル目的ヲ以テ鹽化安門ヲ連日服用セシムル時ハ、一般ニ該海狸ノ體重竝ニ活動力ハ對照群ニ比シテ減退スルモノナリ。

皮下結核感染海狸ニ於テ鹽化安門ノ連日服用ニ依リ「アチドーゼ」ヲ持續的ニ惹起セシメタルモノハ、ソノ結核菌接種部位ニ於テ出血ヲ伴フモノ多ク、且ツ該出血竈ト皮膚トハ互ニ癒著セルモノアリ。出血ノ高度ノモノニテハ該部ノ強直ヲ來シ、運動障碍ヲ見ルモノアリ。然ルニ鹽化安門ヲ服用セシメザル對照群ニテハ斯カル出血ヲ認メシモノナシ。次ニ部屬淋巴腺ノ結核病變ヲ見ルニ、ソノ病變ノ度合 27 例中卅ノモノ 7 例卅ハ 17 例卅カ 2 例ヲ見ル。然ルニ對照群ニテハ 20 例中(卅)ノモノ 9 例(卅)ハ 11 例ナリ。次ニ脾臟ノ變化ヲ見ルニ「アチドーゼ」群ニ於テハ(卅)ハ 1 例(卅)ハ 15 例(+)ハ 9 例(-)ナルモノ 1 例ナルニ、對照群ニテハ 1 例ノ(+)ノ外ハ全部(-)ナリ。肝及腎ニ於テハ「アチドーゼ」群及ビ對照群共ニ病變ヲ認メズ。即チ肝及ビ腎ハ比較的「アチドーゼ」ノ影響ヲ被ラザルモノト解スベキカ。更ニ遠隔淋巴腺ノ病變ヲ觀察スルニ腸間膜腺ニ於テハ「アチドーゼ」群ハ(卅)ガ 2 例(+)ガ 17 例(-) 7 例ナルニ、對照群ハ(+) 8 例(-) 12 例ナリ。肝門腺ハ(卅) 9 例(+) 13 例(-) 4 例ナルニ、對照群ハ(+) 7 例(-) 13 例ナリ。又後腹膜腺ハ(+) 18 例(-) 8 例ニ對シ、對照群ニ於テハ(卅) 1 例アリ。他ハ(+) 10 例(-) 9 例ニシテ(卅) 1 例ヲ除外スレバ、コレ亦大體ニ於テ對照群ノ方病變輕度ナルモノ多シト見ルベキカ。

次ニ氣管枝腺ニ就テ見ルモ「アチドーゼ」群ハ(卅)ナルモノ 3 例(+)ナルモノ 16 例(-)ハ 7 例ニシテ、對照群ハコレニ反シ(+) 10 例(-) 10

例ヲ示ス。

以上皮下結核感染海狸ニ於ケル「アチドーゼ」群ト對照群トヲ比較スルニ、全部ノ變化ヲ數量的ニ觀察スレバ概括的ニ「アチドーゼ」群ハ對照群ニ比シテ結核病竈ノ増悪進展ノ程度甚シキモノト解シ得ラルベシ。

次ニ腹腔内結核感染海狸ノ實驗成績ニ就テ觀察センニ、大體ニ於ケル變化ハ「アチドーゼ」群ハ(卅)ノモノ 10 例(卅)ノモノ 7 例、對照群ハ(卅)ノモノ 7 例(卅)ノモノ 7 例ニシテ幾分百分比ノ上ヨリ見レバ「アチドーゼ」群ニ於テ増悪度、強キガ如キモ、大差アルナシ。脾臟ニ於テハ「アチドーゼ」群ハ(卅)ノモノ 14 例(卅)ノモノ 2 例ニ對シ、對照群ハ(卅) 1 例ノミニシテ他ハ(卅) 4 例(+) 8 例(-) 1 例ニシテ「アチドーゼ」群ノ病變ハ甚シク對照群ニ比シテ増悪セルヲ示ス。肺臟ニ於ケル病變ヲ見ルニ「アチドーゼ」群ハ(卅) 4 例(卅) 6 例(+) 6 例ナルニ、對照群ハ(卅) 1 例(卅) 3 例(+) 8 例(-) 2 例ナリ。肝臟ニ就テハ「アチドーゼ」群(+) 3 例(-) 13 例對照群(+) 2 例(-) 12 例ニシテ大體ニ於テ病變ノ程度ニ甲乙ナシ。腎臟ノ病變ハ兩群共ニコレヲ認メ得ズ。即チ肝及腎ニテハコノ場合ニ於テモ「アチドーゼ」ノ影響ハナキモノ、如シ。更ニ淋巴腺系統ノ病變ヲ追及スルニ、腸間膜腺ニ於テハ「アチドーゼ」群ハ(卅) 1 例(卅) 2 例(+) 5 例ニ對シ、對照群ハ(卅) 1 例(卅) 6 例(+) 7 例ニシテ百分比ノ上ヨリ幾分「アチドーゼ」群ニテ病變モ高度ナレドモ、大體ニ於テ大差ナシ。肝門腺ニテハ「アチドーゼ」群ハ(卅) 1 例(卅) 13 例(+) 2 例ニシテ、對照群ハ(卅) 4 例(+) 10 例ナルヲ以テ「アチドーゼ」群ノ増悪度強シ。後腹膜腺ハ「アチドーゼ」群ニ於テ(卅) 1 例(卅) 11 例(+) 4 例ノ病變ヲ示スニ對シ、對照群ハ(卅) 1 例(卅) 6 例(+) 7 例ニシテ稍モ百分比ノ上ヨリ「アチドーゼ」

抗體產生ニ及ボス影響、喰菌現象ニ及ボス影響、或ハ生化學的方面ニ及ボス影響等モ、結核ノ進展ニ種々ナル關係ニ於テ參與スル所アルベシ。然レ共斯ル種類ノ幾多要約ヲ今茲ニ除外シ、「アチドーゼ」ソレ自體ノ本態タル水素「イオン」ノ見地ヨリ結核ニ及ボス影響ヲ觀察スレバ、既ニ Schade 等ノ抱懷セル如ク左ノ如キ理由モ成立センカ。

生體ハソノ體內各所ニ於テ恒ニ酸化還元ナル生化學的機轉ニ依リテ、諸種ノ酸性物質ヲ産成スルモノナレバ血液ハコレヲ排除スルト共ニ、又コレヲ中和シソノ局所局所ニ於ケル反應ヲシテ正常値ニ保持セシメントス。而シテ Schade ニ從ヘバ結核モ亦一ノ炎衝轉機ナレバ其所ニ水素「イオン」濃度ノ増加ヲ來シ、血液ハコノ異常ナル水素「イオン」集積ノ状態ヲ整復センガ爲ニ、中和的ニ作用スベキモノナルベシ。然ルニ「アチドーゼ」ニ陥リシ血液ハコレニ必要ナルベキ酸中和能力ノ減退セルモノナレバ、異常ナル局所反應即チ水素「イオン」ノ集積状態ヲ、充分ニ且ツ速カニハ整復シ得ザルベク、コハ延イテ病勢恢復ノ障碍トナリ結核進展ノ一因トモナルベ

結

余ハ實驗的「アチドーゼ」ノ海狸結核ニ及ボス影響ヲ知ラント欲シ、一定期間結核感染海狸ニ連日鹽化安門ヲ服用セシメ、「アチドーゼ」ニ陥リタルヲ酸中和能ノ低下ニ依リテ證シタル上、ソノ結核病竈ノ病理學的變化ヲ觀察シテ次ノ如キ成績ヲ得タリ。

(1) 皮下結核感染海狸ヲ「アチドーゼ」ニ陥ラシムレバ、ソノ皮下接種部位ニ出血竈ヲ招來シ、且ツ部屬淋巴腺ノ結核病變モ劇甚ニシテ、軟化自壞スルニ至ルモノ「アチドーゼ」ニ陥ラザルモノニ比シ多數ナリ。肺臟ニテハ「アチドーゼ」群ニ於テ病竈ノ惡化セルモノ多ク、脾臟ニテハコノ状態ハ更ニ顯著ナリ。且ツ「アチドーゼ」海狸群ノ脾臟ハ一般ニ鬱血極メテ高度ニシテ諸所出

シ。

然ルニ更ニ茲ニ興味多キハ結核菌増殖ノ好適水素「イオン」濃度ナリ。Dernby u. Näslund ハ培養上ノ人型結核菌増殖ノ好適水素「イオン」濃度ハ PH ニテ 6.0 乃至 6.5 ノ間ニ存スル事實ヲ實驗證明シ、Schade u. Claussen モ亦コレヲ追試シ右ノ事實ヲ承認セリ。

今若シ血液ノ酸中和能力ニ減退ヲ來シ、從テ病竈局所ノ増加セル水素「イオン」ハコレニ依リテ正常ノ状態ニ迄整復セラレ難シトセバ、ソノ部位ニ於ケル反應ハ結核菌増殖ニトリテハ多々益々辨ズル所ナラズヤ。Schade u. Claussen ハ急性竝ニ慢性炎衝部位ノ水素「イオン」濃度ト結核菌増殖ノ好適水素「イオン」濃度トノ關係ヲ興深キ圖表ヲ以テ現ハシコノ間ノ消息ヲ詳述セリ。

要之「アチドーゼ」ニ於テハソノ血液ノ酸中和能力ノ低下セル事ガ體內任意部位ノ酸性ヨリ鹽基性ヘノ轉移ヲ困難ナラシメ、延イテコノ事ハ結核菌特異ノ性質ニ合致シ、結核病竈ノ増悪ヲ招來スルモノナランカ。

論

血竈ヲ認ムルモノアリ。肝臟及ビ腎臟ノ變化ハ兩者共著明ナラズ。故ニ「アチドーゼ」ノ影響ヲ認メ得ズ。腸間膜腺・肝門腺・後腹膜腺・氣管枝腺等ノ腫脹ノ程度ヲ比較スルニ數量的ニ「アチドーゼ」群ニ於テ高度ナルモノ多シ。

(2) 腹腔内結核感染海狸ヲ「アチドーゼ」ニ陥ラシムレバ、肺脾肝ノ結核病變ハ對照ニ比シテ著シク増悪セルヲ認ム。特ニ脾臟ノ變化ニ於テ然リ。即チ「アチドーゼ」海狸群ノ脾臟ハ腫脹膨大・鬱血高度ニシテ且ツ結節互ニ融合シ廣範ナル結核病竈ハ殆ド組織ノ大半ヲ占據スルニ至レルモノ頗ル多シ。腎臟ノ結核性變化ハ兩者共ニコレヲ認メザレバ「アチドーゼ」ノ影響ヲ決シ難シ。腸間膜腺・肝門腺・後腹膜腺・氣管枝腺等ノ腫脹

程度ヲ比較スルニ「アチドーゼ」群ニ於テ高度ナルモノ多シ。

参考文献

- 1) **Loeb**, Die chemische Entwicklungserregung der tierischen Eier. Berlin. 1909. 2) **Loeb, Beermann and Genter**, The effect of various ions on the experimental amoebocytetissue of limulus and their interaction with other variable factors. Arch. exper. Zellforschg. 1, 257. (1925).
- 3) **Loeb, Beermann and Gilman**, The effect of acid on the amoebocyte tissue of limulus in tissue cultures. Proc. Soc. Exper. Biol. and Med. 21, 245. (1924).
- 4) **Schade**, Die physikalische Chemie in der inneren Medizin. Leipzig. (1924).
- 5) **Schade**, Referat über „Die Entzündung“ Zbl. Path. 33, 563. (1923).
- 6) **Schade**, Die Bedeutung der H-Ionenkonzentration in der Pathologie. Kolloid-Z. 40, 252. (1926).
- 7) **Balint**, Ulcusproblem und Säurebasengleichgewicht. Berlin. 1927.
- 8) **Luthelen**, Kolloidtherapie. Wien. Klin. Wschr. 1921, 119.
- 9) **Chiari and Januschke**, Hemmung von Transsudat und Exsudatbildung Calciumsalze. Arch. f. exper. Path. 65, 120.
- 10) **Fürst, K.**, Verminderung der Entzündungsbereitschaft durch Säurezufuhr. Arch. f. exper. Path. 105, 238. (1925).
- 11) **Wirtz**, Die Störung des physikalisch-chemischen Gleichgewichts der Haut durch Säuerung und Alkalisierung. Krkh.forsch. 2, 186. (1926).
- 12) **Sauerbruch**, Wundinfektion, Wundheilung und Ernährungsart. Münch. med. Wschr. 1924, 1299.
- 13) **Hermannsdorfer**, Einfluß der Ernährung auf Wundinfektion und Wundheilung. Arch. klin. Chir. 138, 398.
- 14) **Hermannsdorfer**, Über den Einfluß der Nahrung auf die Puffskapazität des Blutes und den Heilverlauf und Keimgehalt granulierender Wunden. Dtsch. Z. Chir. 200, 534.
- 15) **Clairmont**, Zur Wundbehandlung durch Ansäuerung und zur Beeinflußung des Mineralstoffwechsels bei Tuberkulose. Münch. med. Wschr. 1926, 1968.
- 16) **Sauerbruch, Hermannsdorfer and Gerson**, Über Versuche, schwere Formen der Tuberkulose durch diätische Behandlung zu beeinflussen. Münch. med. Wschr. 1926, 47.
- 17) **Gaza u. Brandi**, Beziehungen zwischen Wasserstoffionenkonzentration und Schmerzempfindung. Klin. Wschr. 1926, 1123.
- 18) **Gaza u. Brandi**, Die Beseitigung des Entzündungsschmerzes durch Gewebsalkalisierung. Über die Beziehungen zwischen Wasserstoffionenkonzentration und Schmerzempfindung. Klin. Wschr. 1927, 11.
- 19) **Michaelis**, Die Wasserstoffionenkonzentration Berlin 1914.
- 20) **Michaelis**, Die Bedeutung der physikalischen Chemie für die innere Medizin. Dtsch. med. Wschr. 1922, 1269.
- 21) **Keysser u. Ornsten**, Das Optimum der Wasserstoffionenkonzentration P_H als wichtigster des infektorischer Faktor bei örtlichen und allgemeinen Infektionen und seine Bedeutung für die Behandlung eitriger Bauchfellentzündungen. Klin. Wschr. 1926, 404.
- 22) **Schade u. Claussen**, Über Tuberkulose und Entzündungssacidose. Beitr. Klin. Tbk. 62, 300. (1923).
- 23) **Dernby**, La concentration optima en ions hydrogène favorisaut le développement de certains microorganismes Ann. Inst. Pasteur. 1921.
- 24) **Bonanno, A. M.**, L'influence de l'alimentation alcalosique et acidosique sur la tuberculose experimentale. Boll. Soc. Int. Micr. Sez. Intl. 3, 308. (1931).
- 25) **Bonanno, A. M.**, L'influenza della dieta acidosica e alcalosica sulla tubercolosi sperimentale. Verhandlung des III Italienischen Nationalen-Kongress 16-21. April 1931.
- 26) **杉沼宗良**, 結核感染及び罹病ニ及ボス「ラノリン」飼養ノ影響. (二) 肝臓結核ニ及ボス影響. 成醫會雜誌. 第48卷. 第8號. (昭和4年8月). (1929).
- 27) **井上周次**, 食餌ノ結核病成立ニ及ボス影響. 大阪醫學會雜誌. 30卷. 4號. (昭和6年4月). (1931).
- 28) **Balint a. Weiß**, Tissue Proliferation and acid base equilibrium. London. 1932.
- 29) **今村 荒男**, 細菌免疫學的方面ヨリ觀タル肺結核ノ豫後. 結核. 第12卷. 第4號. (昭和9年4月). (1934).

附圖説明

- 1, 2, 3, 9, 10 鹽化安門ヲ連日服用セシメ「アチドーゼ」ニ陥リタル腹腔内結核感染海癩ノ肺及び脾。
- 4, 5, 6, 7, 8 「アチドーゼ」ニ陥ラザル腹腔内結核感染海癩ノ肺及び脾(對照海癩)。
- 11, 12, 13, 14 鹽化安門ヲ連日服用セシメ「アチドー

ゼ」ニ陥リタル大腿皮下結核感染海癩ノ部屬淋巴腺竝ニ接種部位。

- 15, 16, 17, 18 「アチドーゼ」ニ陥ラザル大腿皮下結核感染海癩ノ部屬淋巴腺竝ニ接種部位。

西村論文第2編附圖(1)

1
E 1

2
E 10

3
E 18

E 1

E 10

E 18

4
E 22

5
E 24

6
E 27

E 22

E 24

E 27

7

E 29

8

E 26

9

E 12

10

E 16

西村論文第2編附圖(8)

11

A 13

14

A 59

12

A 23

13

A 29

西村論文第2編附圖(4)

15

A 33

18

A 39

16

A 36

17

A 38